

表浜とアカウミガメについて

私の父は農業を営んでいるのと同時に表浜とアカウミガメの保護活動を行っています。その内容は、砂浜の拡大、アカウミガメの卵の移植、ゴミ拾いなどです。そして私もその活動の参加者です。

毎年、夏になると絶滅危惧種であるアカウミガメが表浜に産卵に来ます。一回の産卵で百個余りの卵を産み、その百個の卵の中で大人のアカウミガメに育つ赤ちゃんは、ごく少数です。台風が来た時は、運が悪いと波をかぶって全ての卵がだめになってしまいます。

私達はそれをできる限りなくすために、砂浜に垣根を作り、風で運ばれてきた砂をためて、砂浜を広げたり、波に近い場所で産卵してしまった卵を波がかぶらない場所に移動させたりしています。砂浜の砂は、ダムなどによって年々減ってきています。アカウミガメが絶滅しそうなのは、卵を産む環境も影響していると思います。その大半が人間による環境汚染です。今はだいぶ減りましたが、数年前は砂浜には人が捨てたゴミがたくさん落ちていました。日本のゴミだけではなく、中国や朝鮮半島、ロシアなどから流れついてくるゴミもたくさんありました。

私達は毎年そのゴミを拾っていますが、最初は地元の人達数人で行っていたゴミ拾いもしだいに人が増え、「里山や表浜を守ろう」という意思を持つ仲間が集まりました。

人間が崩しかけた環境を人間の手で少しずつではありますが、もとの環境に戻していくことは、とても大切だと私は思います。そのため、もともとは他人だった人達が、こうして集まって、私たちの地元のために活動に参加してくださるのはとても嬉しいですし、環境を自分たちから改善していこうという意思があふれていると私は思います。

＜^{たいき}がき
堆砂垣（砂をためるための垣根）の製作風景＞



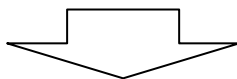
海でイベントという形でゴミひろいや垣根作りをすることで、渥美の海はこんなにきれいなのだと他の人にも知ってもらえるようになりたいです。多分、大半の人が自分たちのすぐ近くに絶滅寸前の動物が産卵に来ているなんて知らないだろうし、私も今まで知りませんでした。自分たちの地元について、住人が知らないというのは、なんだかおかしいように私は感じます。一人でも多くの人に郷土、地元とは何かを知ってほしいです。

私はまだ、地球の環境について専門的に知識はありませんが、私たちの地元にとってもすてきな砂浜があって、そこにアカウミガメが産卵に来ることに誇りをもって、これからもアカウミガメの保護活動に参加していこうと思っています。

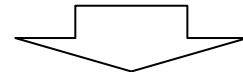
＜^{たいさ}がき堆砂垣の効果～砂の堆積について～＞



↑ 新しく作った垣根



↑ 砂の堆積の目印
(砂の堆積を測るための目印。)



↑ 堆砂垣 (1年後)
(垣根が砂を堰き止めて、砂が堆積した。)



↑ 砂の堆積の目印 (1年後)
(砂が1年で約50cm堆積した。)

昨年も3つほど垣根を作ったのですが、台風でせっかくためた砂がほとんど流されてしまいました。流される前は、50cmも砂が積もっていましたが、いっきに波にもっていかれました。自然を相手にする活動の難しさをあらためて知りました。

表浜には海に沿って森があります。その森のことを「ほうべ」と言います。私たちは、表浜の保護活動と同時に「ほうべ」の保護活動も行っています。「ほうべ」にはたくさんのゴミが捨ててあり、今のように森として見られるようになるまで数年かかりました。

今、そこは公園予定地として開発されています。木の量はだいぶ減りましたが、ゴミの量も減りました。本当はなるべく木を切つてほしくなかったのですが、だんだんきれいになっていく森を見て、手を加えるとこんなにきれいになるのだなあと思いました。

自分たちの地元を自分たちの手で改善していくのはとても大変ですが、住む者としての義務だと思います。その義務を果たしていない人たちは、まだたくさんいると思うし、私もまだまだその義務はたされていないと思います。そのため、これからも地元を大切にしていきたいと思っています。

私はたまたま、父の活動によってアカウミガメや地元の環境について触れることができましたが、地元について興味がない人もたくさんいます。かつて自分がそうだったように。

そのためもっと多くの人に自分が今住んでいる地元の状況を見直して、少しでも興味をもってもらえたら嬉しいです。

私も近々、垣根の修復の手伝いをしに行こうと思っています。これからも活動を続けていき、地元を大切にしたいです。